夕刊
磐城新聞
四月十八日發行
定價一ヶ月金六十五錢　發行所 磐城新聞社
振替東京一〇六五五八番
(祭日翌日休刊)

磐城の獅子舞研究(三)

山口彌一郎

獅子舞の傳承は隣村間に起り數年休み再度行つた際ても行はれた。飯野村天明にコレラ流行て廢絶、現在寺にてて古い舞を忘れて終に及んでゐる。玉川村仕吉び、九十二年前内郷村高坂諏訪神社の師匠治衛門を頼んで來て『め獅子かくし』と棒を習つたと言ふ。獅子舞は又高坂からでなく小川村から習つたと言ふ人もある。草野村北神谷にては古い舞を忘れた爲に田村郡田原井へ習ひに行き、師匠忘れお棒を舞はずて來たと治ひの村人から狐と見えたと言つてゐる。小名濱町諏訪神社にては明治十五年しゝ舞を始めたので、しゝ舞を玉川村仕吉より、棒を身村瀧尻より習つた。然し武等のしゝ舞は衰亡の道を辿つてゐる如く見ゆる。夜野村白山神社に於ては…と高木誠一氏の談に依れば明治十三年の藝人は鑑札を持たねば行けなくなりしゝ舞も一般の藝事と見做され、捕亡傷の取締が嚴で公に稽古出來ず、或る時は捕亡傷に見付けられ、追はれて獅子頭をかゝへて寄の中に逃げかくれ、御咎を受けた事も度々あり、漸やく今日に傳へたものであると言ふ。飯野村天明寺にては維新後未來が廢止されて舞ふ者がなく中絶、其の後復活したが當夜に火事か

神社のしゝ舞は古くは小名濱の諏訪神社へ奉納小名濱にては『仕吉の獅子』が來ると豊漁であるとて嬉ばれたが五十餘年前より行はれず現在祭日に獅子頭のみ飾つてゐる。

獅子頭が餘り永く獅子舞をせずと長持より出たかつて暴れ出さたと話は仰野村の砂屋戸、中山の諏訪神社及び草野村白山神社にもある。砂屋戸では其の爲めに年舞ふのだと言つてゐる。中山のしゝ頭は六十六、七年前盗難に遭ひ本宮町に行つた。夜になると暴れるので困り果てしゝ頭を見ると「磐城國磐前郡中山村」と銘がついての照合と中山の若者が受取りに行き無斷戻つたと言つてゐる。玉川村島の藥師如來の獅子頭は昔未來が湯本町に女郎買ひに行くので留に入れられ、二十五日間出されなかつたので暴れて噛み合ひ雄しゝの角が折れ、宿屋は困つて無償て返したと言はれてゐるこの角は現在は修理してある。

3、しゝ頭の名稱及びしゝ舞の用具保管の場所

しゝ頭は内郷村仕良、平市中平窪、玉川村岡小名の如く一般には牡しゝ中しゝ牝しゝと呼ぶ。中しゝは實は牡しゝで牡二匹に牝一匹の三匹しゝよりなる。然し牡しゝを内郷村白水、玉川村仕吉。高久村八幡等にては大しゝと呼び、平市下平窪にてはおしゝと言ふ。中しゝは何れにても同じく呼び、牝しゝは平市下平窪にてのみめしゝと言つてゐる。内郷村白水にては平城主内藤公より紋所拜領と稱ししゝに着ける麻布に紋が染め抜いてある。

春寂し(上)

田村綾子

○押花の梅一輪を文に添へて征旅の從弟に今日送りたり

○芍藥の紅き芽萠ゆをいとしみつ施肥する庭に陽のうららなり

○子等の去りし庭にいたましき芍藥の紅き芽一つ踏まれてゐたり

○春なかに醫藥まず病む母のみとりに過ぐす朝な夕なを

○旅に出て我が心を癒やしたく思へど病める母のある身は

嗚鈴木泉驛助役

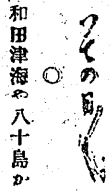
喪北堂

琅雲　小野蘇平

斯冊有斯子
長承淑水獄
蓼莪何怨涌
香火爲闌干

4月19日

△阿片の喫煙を禁ず(明治元)△グーキン死す(一八八二)△閣議で中央、地方に物價委員會設置決定(昭和一三)



つくし

○和田津海や八十島かけて歸る雁　野術荷

講談

恩讐無道(おんしうむどう)

久我荘多郎
香川三十代畫

(79)

―地の卷―

遲卒第一歩(十二)

『やあッ!』

咽喉にふくんだ叫びを放つたかと思ふと、相手は、

『ぬッ』

惣介の腕を掴んだ。

目に見えるもの凡てが、一回轉したと感じると一緒に、惣介の體は、宙に浮いてゐた。

『ドサッ!』と、疊の上投げ出された時、

ズドウン!

ズドウン!

繰返しての銃聲である。

これは、二重マントのうしろにゐた、馬丁風の覆面が放つたものだが、狼狽してゐるから、彈は、いづれも惣介の左右の壘を射拔いたに過ぎない。

その間にも、二重マントの男は四肢を踏ん張つて、キッと構へをつけながら、こちらを睨んでゐる壘に肪這つて惣介は、銃聲の危險を忘れて、その男の油斷をねらふのである。

(何といふことだらう!)

必は、大きな驚異に動いてゐるこれは、素晴らしい敵である。敵に迎へて不足のない力量の持主である。

思ふと、幕府瓦解以前の普請組勤務の當時、組内三百人のその中で、惣介と互角を取る腕前の男は、さうザラになかつたのだ。いや齋藤彌九郎の道場に於てもあまり見かけなかつた。

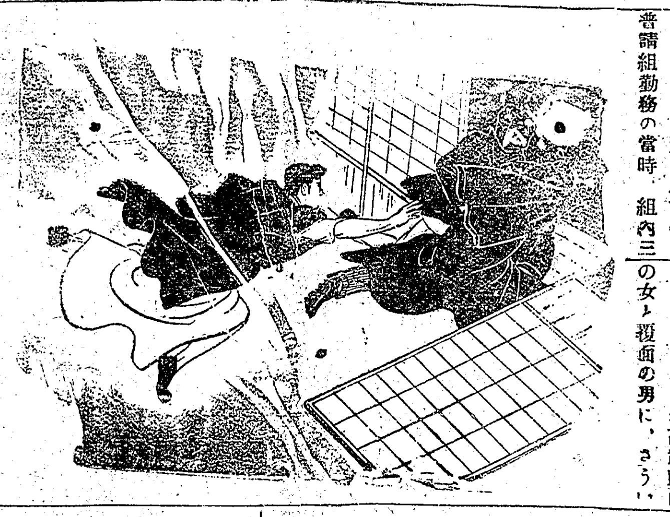
それなのに、この夜盗は……?自分がもろくも投げ出されてゐながら、惣介は、相手の水際立つた腕前に、われ知らず感嘆するのだ。微笑をふくむのだ。

(面白い!)

やらう!と、彼の胸は、勃然たるものに騒ぎ立てられる。

絶えて久しいことである。こんなに、いゝ敵にめぐり會つた事は……。

腕が疼き、血がをどる。[illegible]相手[illegible]、夜盗[illegible]



ことを思ひ出さずといふ。たゞ、心ゆくばかり、このけなげな敵と闘つてみたくなつた。

『行くぞッ!』

『おゥ!』

相手も、惣介の氣持を胸に感じたが、凛と答へてゐる。顔は見えないが、わづかにのぞいてゐる目許に、口許に、ニヤリと快心の微笑が浮び出たやうである。

惣介は、ヂリ、ヂリと身を起して行つた。防禦の姿勢から攻勢に轉じた。

だが――その瞬間である意外のことに、相手の男は何を思つたのか、急に反省を働かしたやうに、サッと身を翻すのだ

『散れッ』

うしろにゐるお高祖頭巾の女と覆面の男に、さういふと同時に、自分も燕のやうな早さでズ、ズッと退いた。

『あ――待て』

すぐと、惣介はあとを追つたがその時はすでに、彼らの姿は障子を蹴倒し、庭を横切つて、裏木戸の向ふの、しら〳〵と煙る雨のなかに消えてゐたのである。

不思議だつた。敵ながらあの敵の心持が、惣介にわからない。何故ともなく、自分を避けてゐたやうに思ふ。

(どうしたのか?不思議だ)

呟いてみても、解らない疑念が心をふさぐ。

振返ると、そこの奥座敷に、この神崎屋と云ふ呉服問屋の主人をはじめ、その娘の民子や女中、小僧までがきびしく縛られてゐる

『おゝ』

惣介は、いそいで駈け戻つて、繩目を解いてやつたそこへ、バタ〳〵と足音をみだして、さつきの手代風の男を先登に、二三人の邏卒が跳び込んで來た。

『やッ、君は……』

と、邏卒の一人がいふ。

惣介も相手を見て、目を瞠つた。

『あなたは……』

それは昨日、日本橋で惣介を取調べるといつた、難波愼吾といふ名の、若い邏卒であつた。

廣告

おでん
たつた揚
やきとり
一平
電話二六三番

酒トマヅイおでんの
榮ちやん
平市田町花ノ里
電話三三番

銃後の皆様におすゝめする
(糸イラズ)
綿布、絹糸、暴騰の折柄古き破れたる足袋、靴下メリヤス、ジヤクツ、其他何品に依らず活かして御使用出來ますから一家の經濟は勿論ひろく國家の經濟は莫大なものとなりませう。男子の方や御子樣方でも容易に修繕出來まして糸や針がなくても立派に仕上りますから此の非常時の場合是非一家に一個御揃へ御使用下さい。
(定價二十錢 三十錢)
平市古鍛冶町一〇(縣社下)
阿康藥局
電話四四番
振替東京三〇〇六五番

移轉廣告
今般左記へ新築移轉致候間御通知申上候
昭和十四年四月
平市南町十四番地(警察署通り角)
(舊診療所 平市六丁目)
外科一般
内臟外科
性病科
肛門病科
木村外科醫院
木村淳
電話三〇九話
◎入院應需

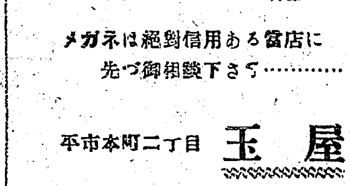
皮膚科
泌尿器科
性病科
專門
診療時間 午前八時ヨリ午後九時マデ
平市田町
江尻醫院
電話六九一
醫學博士 江尻伊三郎
入院隨意

おでん、やき鳥
小鳥燒も初めました。
お酒のあとにおけさめし
おでん
茶めし
酒の家
平市三田小路(三丁目裏)
味郷

酒ハ白菊
酒之王
君德
グントク
秋田・伊藤本家吟釀
特約店
平市田町
白菊廣瀨支店
電話五四番

病室・手術室完備
產科
婦人科
醫學博士 五十嵐雄二
(物理療法科併置)
(入院隨時)
平市新川町(電話三六九番)

メガネ專門の店



メガネは絶對信用ある當店に
先づ御相談下さう…………
平市本町二丁目
玉屋

實株は買ツテ御手元へ
必ズ儲カル優良株
投資指針
●支那事變公債四萬圓マデ買マス
平市四丁目三十三
富岡株式店
電話二五八

登録商標
霞城
銘酒
壽
山形市七日町
虎屋酒造店醸造
發賣元
上總屋商店
平市三
電話七三一番

登録商標
金紋
大吟醸
花[illegible]
防腐劑ヲ含マズ
山形縣小松町
嵐山酒造株式會社醸造
東北の最高酒

中等學校
正服……大特賣
高嶋屋の洋服
男女學生服
新入荷
注文並ニ既製品
高島屋
平市二丁目
電話三八六番

此度組織を會社に改め營業の充實を圖ると共に統制下にある吾等は國策に順應して御得意各位樣に精々御便宜を計るべく社員一同努力仕るべく候間倍舊の御引立を御願申上候
鐵棒、平鐵、しやふと
鐵管、各種レール類
新品中古入荷仕り候間精々御注文相願度尚諸機械類各種取揃へ御來駕を御待申上候。敬具
海軍工廠御用達
KS
合資會社 平銅鐵機械商會
平市鍛冶町九(電話五二二番)
電話(イ)又ハ(イ七)
振替東京一五七五二二番
倉庫 平市銀冶町卅三番地
平市銀冶町九番地

連日の晴天續きに 公園の花氣分最高潮
晝夜分たぬ賑ひ振り

點燈やら餘興演藝の上場やら、三春の松ヶ岡全園を淡紅の櫻一色に極彩色し、人工の企て難い自然美に濃艶な地上の龍宮城を現出した去る十五日の土曜日以來『小雨がパラつきませう』なぞと毎度のラヂオに脅かされ乍ら、今日迄打つ通しの晴天續きは全く稀有の事であり、時局柄お花見氣分として例年程、景氣が彈まぬにせよ、園內の各賣店なども未だ一日も雨に祟られぬのを喜んでゐる。昨日の縣下自動車協會總會についで今日は之亦縣下工場協會の集りがあつて會議を終つた之等の人々で今や全く滿開となつて咲きも殘らず散りも初めぬ花の公園は相も變らず終日を明るく賑つた、夜櫻見物の人出もまた今迄に劣らず多い事であらう

『團結心を養へ』
農業戰士に知事訓話

郡農會主催郷想郷化實行委員大會は昨十七日午前九時から平第三小學校講堂に君島知事を迎へて開催、出席五百餘名、遙拜、國歌合唱、鷲部農會長告辭、委員宣誓(高久村薬谷久太郎氏)に次ぎ同十時から君島知事訓辭『石城地方は有史以前からの農業地である。この傳統を尊重して今ぞ若人の立つべき時だ、精神修養と併せて大いに團結心の涵養に努めねばならない』と前後一時間に亘り出席農業戰士に呼びかけた、午後は中堅農民同窓會に移り、戰病歿者慰靈祭、薬谷同窓會長祭文、玉串奉奠等あり「我等は町村農會の手足となり一路農業報國に邁進す」との決議文を萬場一致可決、出征遺家族、歸還兵慰安を兼ねた會員の餘興で和氣靄々裡に三時閉會した

市農會役員

市農會初總代會を十六日市役所に開き役員を選任した

(會長)諸橋久太郎(副)藁谷藤太郎(評議員)荒川恒次郎、吉田寅之輔、關內正一、根本久光、吉野富衛、大山新次郎

尙諸橋會長が自費で購入した改良和牛の貸付け規程を設定、保證金二十圓で三人に貸つける

小千兩が浮く
時局に即した縣社祭典 神輿渡御の經費概算

平の花を一段多彩ならしむる昨今兩日の縣社子鍬倉神社例祭に際し、種々の都合から恒例の神輿渡御が取止めとなつた事は、市內の氏子一同は云ふ迄もなく、外來の花見客にも或る種の淡い寂しみを感ぜしめてゐるが之に因つて市內の失費が數百圓から小千兩も浮くと云ふに至つては時局柄神社側の措置もまさに左もあるべきことと頷かれる。即ち神輿の渡御に奉仕するとなれば當番町內の人員を百人として揃ひの衣裳、帶、手拭、足袋等の被服費が物價騰貴の今日一人當り概算五圓として之に差當り五百圓を要する外、二日間に亘る延べ二百人の賄費なども相當な額に上るので彼此貧弱な町內では自町一個で之の任務を果す事が出來ず。隣接町內と合同して辛くも氏子としての責を完ふしたなど蓋し既往の事實に徴して明瞭なものがある。尤も今日では大体一と通りの役目を果し各町內共夫々調度が完全して居り、之を襲用するか或は青年團服等で奉仕すれば之種の經費は免れぬ筈ではあるが、長期戰下の今日に於ける今縣社祭の神輿渡御見合せは立派な根據を有するものとして一同これを是認してゐる樣である

深更往診を求めた 物見ヶ岡の牝白狐
炎上を續つて春の話題

物見ヶ岡稲荷の火事に白狐三匹飛び出した」とまことしやかに傳へるものがあるとかで、市內一部のひま人や先刻來の映畫仕込みから白狐と大きな興味を有つ少年の間などに少からず獵奇を唆つてゐるが、次は今から五十年も前頃市內に傳へられたと云ふ物見ヶ岡狐の話。

一夜深更「難產に呻めき苦しんでゐるから……」と叩き起されたY醫師は往診を求めらるゝ儘た、使ひの男を案內に物見ヶ岡方面へ出かけ耆婆扁鵲の腕によりをかけて其妊婦を助け、茶菓子に出た饅頭と謝禮とを懷ろに歸つて翌朝になつた處、折目もつかぬ紙幣であるべき前夜の謝金が何時の間にか木の葉に變つてゐた饅頭は本ものだつたがそれは其所に程近いながし菓子屋でその晩紛失したものだつたので誰云ふとなしに、その姙婦は人間に姿を變へた物見ヶ岡の牝狐だ。と云ふ事で一ときりは當時の話題を賑はした。と市內某古老のはなしである

米內海相から感謝狀
獻金を持續して 入山四坑員愈よ感激

入山炭礦第四坑從業員は今事變勃發以來皇軍慰問會を結成、毎月據金して旣に前後十九回に亘り陸海軍に獻納したがこの赤誠に對し十六日米內海相から懇篤な感謝狀が贈られたので昨十七日山神社脇に總會を開き吉田、佐久間正副會長以下四十一名出席の下今後愈よ會の擴大强化をはかり事變終了迄繼續せんとの力強い申合せをなした

鷲氏の選擧費用

無競爭で縣議補闕選に當選した植田町鷲清昇氏の選擧費用は合計十九圓六十四錢、內譯左の如し

家屋費五圓、通信費六八錢、船車馬賃四圓六六錢、筆墨紙代五〇錢、休泊費三圓、飲食物費四圓八十錢、雜費一圓

けふ工場協會總會
優良從業員を表彰

本縣工場協會第十九回定期總會は今十八日午後一時より市公會堂に開催

遙拜、默禱、優良從業員表彰狀及賞品授與、青柳會長告辭、本田平支部長挨拶、來賓祝辭、受賞者總代答辭等あり終つて日本間で簡素な祝宴を張つた、平支部被表彰者、既報平市內以外の分左の如し

(小名濱町)伊藤義勝、井上政雄、安齋正二、佐藤佐補、鯨岡安美、倉田松雄(湯本町)松原源吉、關部源太郎、小野湾、高木二美男、鈴木駿吉、太田明、吉田宗貞(澤渡村)須藤清市(江名町)佐藤友彌、鈴木熊吉、安島一、飯田博、坂本長次郎(玉川村)佐藤武志、眞柄健吉(赤井村)半內八喜、日西清長、草野正克

盲生の赤誠

市內磐城訓盲院々徒杉幸子さんは慰問袋一個を市役所へ

小川江竣功式

小川江筋組合の竣功式は來る二十二日午前十時から小川村關場の取入口で擧行することに決定

○○○○ 酒商組合總會 石城酒類商組合總會を二十日午前九時から公會堂で開催

新に施行セラレタ税法ニ就テ(上)
平税務署長談

今次の第七十四回帝國議會に於て協讃を經て實施を見るに至つた建築税は本年三月三十日法律第四十八號を以て支那事變特別税法へ追加新設せられ讓渡利得に對する臨時利得税は同日の法律第四十九號を以て臨時利得税法に追加新設せられ何れも本年四月一日より施行せられた。

以上兩税を創設せられしは御承知の通り一部は臨時軍事費の財源に當てるため一部は支那事變の影響によりて利得の增加を來してゐる部門より臨時利得税を增徴すると謂ふ建前より實施せらるるに至つたものである。是を各税に就き概略說明すれば

一、建築税

昭和十四年四月一日以後に竣成する新築、增築、改築等の左記種類に使用する家屋であつて一棟となるべき建築價格一萬圓以上のもの(造作、電氣、其他の附屬設備及庭園等の設備費を含む)は其の價額より五千圓を差引いた殘價額を課税價額として之れに百分の十の税率を以て算出した金額を税額と爲し竣成の際徴收するものである從つて以上に該當するものは法人、個人を問はず竣成後二十日以內に政府に申告する義務がある納税地は其の家屋の所在地を以て納税地と定められてあるから東京の人が平市で建築等をした場合は平市に於て政府に申告して納税をすることとなるのである。尤も建築家屋であつても災害に因つて滅失又は損壞し又は法令によつて收用及取毀したため之に代へて建築した樣な家屋等に對しては本人の申請を俟つて免税する取扱であり又縣市町村其の他命令を以て指定せられた公共團体が建築したもの或は長屋、共同住宅、及寄宿舍又は一時の使用に供する家屋等は課税しないことになつてゐる。

興亞日本に子は寶
少年保護記念日 平自營會叫びかく

財團法人平自營會では十七八兩日の少年保護記念日に際し『興亞日本に子は寶』のスローガンに

――あなたのお子さんや知合の所に不良な傾向のある少年少女があつたら司法保護委員へ御相談なさつて下さい、當縣下に少年審判所がないのは如何にも殘念です。しかし司法保護委員が出來る限りの保護を致しますからどうぞ御遠慮なく御相談を御持ち込み下さい

と保護者に呼びかけた言葉等を印刷したチラシを各方面に配布、保護善導に努める

數の多い割合に 少い自動車事故
昨年中の平署管內統計

スピードアップの深化に並行して其の數を增す自動車事故の昨十三年中に於ける傷ましい記錄は件數一九一、致死三五、傷害一八一、物件損壞五五、損害額一〇、八八九圓で致死の最多は二本松、若松、喜多方、小野新町、平、植田、中村各署管內の各三、傷害は福島の二七が最高として保原の二四之に次ぎ平の一九が第三位となつてゐる。物件損壞は福島が最高で一二、二本松が六で第二位、田島、平の五が其の次に位してゐる、損害高は特殊の事故があつた富岡の三千圓を筆頭 次ぎ桑折の八百四十圓で平は三百二十三圓で車數の多い割合に郡山、田島、石川などより少いことになつてゐる

文部省習字審査委員國定書方手本筆者 鈴木翠軒先生御選定
●愛國筆 金拾錢ヨリ金參拾錢マデ
●翠軒先生用筆 金二十錢ヨリ金五圓マデ
平市才土小路 特約販賣店 魁文堂 電話313番

平市慶弔錄

△出生 紺屋町大塚政市氏長男勝久君、本籍揚土橫濱市磯子區六浦町上坂正勝氏長女みどりちやん

▲死亡 本籍月見町鞍山市北三條町小澤敏章君(二八)才槌小路森田キミさん(二四)中鹽地引彌助氏(八〇)研町內藤和宜君(一)南町伊藤ふくさん(七二)

十九日 (小名濱測候所發表)
滿潮 前二、二五 後三、一〇
干潮 前九、〇〇 後九、一五

舊二月三十日 水曜 丙戌 先勝 破 參宿 新四月十九日

▲一白 目上の者の感情を損ひ易き日控へ目が吉し▲二黑 姑息手段を採らずあくまで働きに依るべし▲三碧 思ひにふければ身をこがす位高きも驕る勿れ▲四綠 打てば打たるゝ世のならひびくきに居るが安全▲五黃 多少の支障あれどたゆまず勵めば吉に向ふ▲六白 事を始むるに吉き日但し急ぐことはつゝしむべし▲七赤 勞苦を積みし報ひの我が身に廻り來る吉日▲八白 流言ふ說に動かさるゝ日新しき事はもつとも凶▲九紫 四圍の感情を損せざれば次第に吉運と成る

御婚禮 御宴會 御法事
花見折詰ハ多少ニカヽハラズ御用命下サイ
純日本料理 酒喜家 電話一七一番

夜間診療
胃腸性病專門
內科 胃腸病科 花柳病科 性病科 皮膚科
(見習看護婦募集)
松村胃腸性病科醫院 (平市南町電一〇七番)

鐵屑買入價格並ニ販賣價格
日本鐵屑統制株式會社ヘ納入値段

種類/區分	電氣爐用	平爐用
壹級品	千瓩ニ付 一〇〇圓	千瓩ニ付 九七圓
貳級品	九七圓	九四圓
參級品	九三圓	九〇圓
級外品	八〇圓	八〇圓
並ダライ粉	八〇圓	八〇圓
銑ダライ粉	八〇圓	八〇圓
ブリキ屑		六八圓

上記ノ通リニ各品共販賣致シ居候間當店ノ買入價格ハ何レモ千キロニ付金參圓宛ノ手數料ヲ差引タル値段ニテ買入致ス可候間之又御利用下サレ度候

各鐵工業者ヘノ納入値段

種類/區分	賣値千瓩ニ付	買値千瓩ニ付
古銑鐵	一〇〇圓	九七、〇〇
古鐵材	一三〇圓以下	一二五、〇〇以下

註
1、當地附近ヨリ發生ノ鑄物屑ハ需要ニ滿タザル現情ニ付キ鑄物屑販賣ニ關シテハ平鐵工組合ト連繫ノ上一般業者ノ從來ノ實績ニ依リ公平ニ販賣致度キ考ヘニ候ヘバ御諒承願度候
2、鐵屑類ハ日本鐵屑統制株式會社ノ指定先及ビ指定量以外ハ絕對販賣出來ザルモノニ付キ堅ク御斷リスルト共ニ是非必要ノ工場ハ統制會社ヘ配給方申請セラレ度候
3、古鐵材ハ一般鍛冶業者等ノ使用セラルル材料ニシテ配給ニ便利ナル組合モ見當ラズ候間御入用ノ分丈ケ宛千瓩一三〇圓以下ノ割合ヲ以テ販賣致可候

日本鐵屑統制株式會社 指定商
山田商店
平市十五丁目六番地 電話五五五番

洋服裁縫師 至急入用 二、三名
但シ二十五六才ヨリ三十才マデ
心得有る中年者も入用(但シ舊師ニ關係ナキ事)
身体強健にて眞面目に永續出來る者は左記に照會ありたし尙當店の情況に附いては『當市吉田屋吳服店』にて詳細知る事を得
東京市日本橋區橘町十五
丹野洋服店
丹野瀧二郎

父平次郎儀病氣療養中の處藥石効無く十五日午后十一時三十分死去致候間此段御通知申上候
追而廿日午后一時より二時迄自宅にて告別式を行ひ茶毘に付し郷里栃木縣上都賀郡菊澤村字子に於て埋葬可致候
昭和十四年四月十六日
女 藤沼里子
親戚總代 藤沼隆次
同 星野德次郎
友人總代 清水廣政
同 伊藤秀吉
同 牛谷政喜